

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000705		
法人名	有限会社 グループホーム花		
事業所名	グループホーム 花(2階)		
所在地	小樽最上2丁目19番9号		
自己評価作成日	平成28年11月4日	評価結果市町村受理日	平成28年12月5日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの「出来る事」「出来ない事」を把握し、出来る力を信じて積極的に物事が出来るように自分らしい生活が送れるように支援している。

ホームからの景色も四季が感じ取られ、静かな場であり、敷地内には畑があり収穫されたものは食卓に出されます。また、駐車場も広く車も置けます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani%3D%3E&amp;JigvosvoCd=0172000705-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani%3D%3E&amp;JigvosvoCd=0172000705-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年11月19日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

身内である代表者や管理者はそれぞれに介護の経験があり、そこでのノウハウを活かし、自然豊かな場所に開設して12年が経過している。周辺は、寺院や住宅街が立ち並び閑静な環境にある。地域からは運営推進会議に2名の出席を得ており、事業所の質の向上に繋がる意見や情報が寄せられている。また、保育園、小学校、中学校と相互の訪問があり、子供達とのふれ合いは利用者の笑顔が見られる場面になっている。事業所前の広い敷地は、駐車場の他に菜園の成長を眺める園児の散歩コースになっている。さらに、毎年開催しているフリーマーケットは地域交流の場になっており、利用者や家族をはじめ大勢の地域の方で賑わっている。職員は利用者との会議の場を設け、出された意向や要望を参考に食器拭きなどを当番制にし、身体機能維持のために町内会主催の体操教室に同行し、馴染みの場所等へ外出支援を行っている。職員は、役職者を心強い存在だと感じ「因は我にあり」を念頭に日々ケアサービスに努めている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果 (2階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員が忘れないよう理念を事務所、廊下、リビングと常に目にふれられる場所に掲げ全職員が共有化を図るとともにケア理念を振り返るようにしている。又、実践にもつなげられるよう努力している。	事業所理念とケア理念に加え「因は我にあり」の文言を事業所内に掲げ、地域との関係性やケアを振り返る時の指標としている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年も夏秋と2回づつ近隣の保育園・小学校・中学校と訪問及び来訪し地域交流を取り組む事が出来ました。又、GH花で主催するフリーマーケットにも沢山の地域住民及び家族に来て頂けて地域の一員として交流を収めた。	利用者は、町内会の体操教室に通ったり、神社の参詣、園児や小・中学生とふれ合い、ボランティアの芸能披露などを楽しんでいる。地域の介護相談には快く応じている。毎年開催のフリーマーケットは地域の交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の住民などから相談を受け、地域包括支援センターや介護サービス事業所を紹介したり近隣の中学生・小学生と交流を通じて入居者と実際に関わり認知症の人の理解していただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域包括支援センター・町内会役員・近隣地域住民に必ず参加をして頂き、サービスの取り組み状況を報告し話し合いを行い、サービス向上に努めている。又、最近では交番の警察官にも参加を依頼し防犯等の取り組みにも力を入れている。	運営推進会議は関係者の参加の下定期的に開かれ、事業所の現況報告後に内容についてや災害対策等の課題について意見や情報交換が行われている。防犯などリアルタイムな議題には専門職に出席を要請している。	課題である家族の参加は望む結果に至っていない。議事録の内容周知で会議の理解に繋げ、キーパーソン以外の家族への参加要請など引き続きの取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば、都度、市町村担当職員の所へ出向いたり電話で実情を積極的に伝え助言を頂くなど日頃から協力関係が築けるよう取り組んでいます。又、上記の警察官との連携も市町村担当者からのアドバイスの下である。	行政担当者とは運営推進会議や実地指導以外でも事務長が担当窓口に出向き、報告や相談事に意見や助言を受け運営に生かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて身体拘束禁止規定や早期発見の責務と通報の義務について等の研修を行い、改めて職員皆で認識の確認を行うとともに皆が正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。又、日中は鍵を開けたままであるが、夜は防犯の意味もあり、日勤者や遅番者が帰宅後に施錠をしている。	職員は年1回の内部研修や日常業務で、身体拘束廃止や虐待防止への理解に努めている。役職者も職員の対応については都度注意を促し、正しい理解へと導いている。施錠は夜間のみとする。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待法の執行の経緯と概要や要介護施設の従業者と事業所の責務、高齢者虐待の定義について内部研修にて学んでいる。職員一人ひとりが虐待が見過ごされる事の無いよう注意を払い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現に成年後見人がついている入居者が数名いるため、直接、後見人から話を聞くなど制度の理解などに努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及びに解約時など入居者家族と十分な時間を設けて不安や疑問がないか尋ね説明して理解していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に、ご家族の参加を促しているが参加へなかなか結びつかない状況である為、ご家族の来訪時には必ず意見・要望がないか聴いて運営に反映するよう努めている。	家族に毎月写真を載せた「花便り」と個別の手紙を送付し、面会時や電話でも利用者の様子を伝え、その折りに意見や要望を把握している。さらに、利用者との会議の中で希望を傾聴し解決策を検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に全体会議・フロアーミーティングを開催するなどして職員の意見や提案などをきく時間を設けているとともに、必要に応じて個別に面談をし話を聴くなどしている。又、職員と食事に行くなど意見が言いやすい関係性を作るなどコミュニケーションを図っている。	役職者は職員とコミュニケーションを取り、職員の要望や意見を把握している。提案により、ハロウィンや屋形船の港巡りが実現している。労働環境についても満足度に繋がるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、自己評価表を使って評価と日常の勤務状態と照らし合わせ、職員の努力・実績に応じた評価を行い、手当を支給するなど、やりがい・向上心を持って働けるような環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交代で各々で研修項目を決め、外部研修や自ら勉強した内容を職員が内部研修の講師として学び、皆が情報共有とともにスキルアップが出来るよう支援体制を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市内にて定期的開催しているケアネット研修会の幹事をさせて頂き、他業種の方等との交流が図れる場に参加させて、勉強会やネットワークづくりなど日頃のサービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には必ずご本人との面談は必須であり、ご本人から生活歴・不安な事・要望等を聞くようにして、ご本人の安心を確保できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様に家族との面談も必須であり、ご本人ご家族から生活歴や現在の状況・状態や不安な事、要望を聞く事で安心して暮らしていける為の関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず入居前に、担当ケアマネから口頭及びfaxにて情報収集をして状況を把握するとともに、ご家族に申込書及び基本情報シートとご本人家族からの話し合いにて必要としている支援を見極めサービスの利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事は自分でしていただくなど、できること・できない事を見極め、本人がホームでの役割をもち協力して生活ができるよう、お互いが信頼できる関係性を築けるようにして支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月郵送にて日常生活状況等を花便りと手紙にて報告及び共有している。出来るだけ行事にも参加して頂けるよう促している。又、本人がご家族に連絡したい時などは橋渡をして家族との絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの掛かりつけ医院・美容室など入居後も変更せず馴染みの関係が途切れないように支援している。又、ご家族に確認の上、友人等が面会に来た場合もゆっくりと過ごしていただいている。	利用者との会話や生活歴、家族からの情報等で社会的背景を把握している。面会が少ない利用者も地域との交流は馴染みの関係になっている。初詣や地域の行事、買い物等で途切れない社会との関わりに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同フロアの利用者同士、外出やレクリエーション行事や日々の体操等を通じてコミュニケーションを図り、共に関り合える関係性を作るよう努力している。又、定期的に別のフロア入居者との関わりを持てるよう合同で外出や体操をしたりの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族や新たな居宅及び病院担当者から連絡が有った場合など、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて情報提供するなど本人や家族のフォロー並びに相談・支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居様との会話や毎日の生活リズムの中から思いや希望、意向などを把握しケアプランに反映している。困難な場合には、ご家族様から意向を汲むようにしている。	日々の関わりで利用者の言葉や表情、回想法の中から外食したい、菓子店に行きたいなどの要望を把握している。要望に対してどの様に沿うことが出来るかを職員間で検討し、出来る限りの支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に担当ケアマネやご家族から頂いた情報などにて暮らしから、生活歴、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、個別に様態・行動をしっかりと記録して、申し送りや連絡ノートにて職員間で情報共有を図り過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のモニタリングにて気付いた事などは申し送り及び連絡ノートにて、職員間で話し合いをして介護計画の見直しに役立っている。又、本人や家族の意向を聞き、現状に即した介護計画を作成している。	利用者の何気ない言葉や仕種等も記録に残し、関わりの中から利用者の生活に対する希望や家族の思いを聞き、医療関係者の意見や職員の提案等を反映して現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画をもとに毎日の様子を個別に記録およびモニタリングし、ちょっとした変化等に注意を払い職員間での連絡を密に情報共有を行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の馴染みある主治医への通院、買い物、入院時の同行・代行支援や保険証等の更新申請手続きなど本人・家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して柔軟な支援サービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園・小学校・中学校などの学校祭に参加するなど定期的に地域交流を図り豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には職員または看護師が必ず同行しているため日常の様子など適切に状況報告を主治医に伝える事が出来ていて良い関係を築きながら適切な医療を受けられるように努めています。	受診は、利用者や家族の希望を尊重している。家族の協力を得ながら、受診時はなるべく職員や看護師が同行して利用者の様子を医師に伝えている。協力医による往診態勢も整えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームで雇用している看護師が定期的に週3回出勤し介護職員と情報共有をしながら利用者の状況を把握していただき適切な受診や看護が受けられるよう支援しています。又、24時間オンコール体制で緊急時などにも対応できるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医師・看護師・医療連携室と連絡を密にとりあい様子観察に行くなどして状態を把握するよう努めている。又、相談・助言をいただくなど退院時は安心してホームで生活ができるよう病院関係者と関係作りを行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」を家族に説明し同意を得ている。看取り支援は行わない為、実際に重度化し主治医が当ホームで看護が困難と判断した場合には入院または転居出来るよう調整とする。	今回、医療連携体制加算を取得し、重度化や終末期に向けて指針や同意書を整えている。今後は、看取り支援を視野に入れた取り組みを検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	25年度には、外部講師を招き赤十字救急法の研修を当ホームで行なって以来マニュアルにて学んで頂いている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回は必ず、日中・夜間を想定した避難消防訓練を実施している。全ての訓練時は消防署職員の派遣と火災通報装置に登録されている地域住民にも参加をお願いしている。又、火災だけではなく地震訓練も実施している。	消防署や地域の協力の下、地震を含む日中・夜間想定した避難訓練を年2回計画し、1回目は終了している。管理者は行政主催の実技救助訓練に参加し、災害時備蓄品は順次用意するなど非常時に備えている。	再度、土砂災害、断水、事業所内倒壊危険箇所の洗い出し、避難先への実践的訓練と家族へ避難場所の周知、加えて、非常時にスムーズに行動が出来るための自主訓練に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳とプライバシーを損ねないよう言葉かけの際には、言葉使い口調や態度に気をつけた対応をしている。	職員は、入社時や内部研修、日常業務等で望ましい接遇のあり方を学んでいる。特に言葉遣いは注意しており、名前は基本的に名字で呼んでいる。個人情報も適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さな事でも本人の意思を尊重して本人が選択し、自己決定できるよう職員が本人の言葉や表情などに意識してケアできるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で業務を優先しないように一人ひとりのペースを大切に気分や体調に配慮し希望にそった支援ができるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着慣れた、お好きな服を選んで頂き自由に着用している。状況に応じて、季節や天候・行事などを考慮して職員がアドバイスをするなど支援を行なっている。又、2か月に1度は必ず散髪をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聴くなどして食事作りは、概ね職員がしている。可能な時には入居者の方と一緒に準備や食事作りを行う事もある。片付けに関しては、必ず利用者と職員が一緒に行っている。	毎日の食事以外に前庭でジンギスカンを楽しんだり、菜園のサツマイモ、トウモロコシ、トウキビなどを収穫しておやつとして食べている。時には焼きそばや餃子を皆で作り会話を楽しみながら、職員と利用者は食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録にて摂取量を把握し、食欲低下や水分がすすまない時には好みの物を用意するなど栄養バランス等を確保できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に応じて必ず歯磨き及び義歯の定期的な洗浄にて清潔保持・歯周病予防に努めています。又、必要に応じて訪問歯科にて口腔ケア並びに在宅医療を利用および歯科衛生士又は先生に相談しアドバイスを受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して様子を見ながら声掛けなどにて誘導を行なっている。自立されている方は見守りケアなど自立に向けた支援を個別に行なっている。	自立排泄が出来る利用者以外は、職員が声かけや誘導等でトイレでの排泄支援を行い、失敗の軽減に繋げている。家族の同意を得て、トイレに入ると赤ランプが点灯し利用者の動きを察知できる環境にある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの好みに合わせて定期的にヤクルトやヨーグルト、乳酸菌飲料等で腸内環境を良くするなど自然排便を促す取り組みを行ない便秘の予防に取り組んでいます。又、必要に応じて医師に相談し便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	血圧や熱、体調の変化を把握し本人の希望を確認して同性介助をするなどプライバシーを配慮しながら個々にそった支援をしている。	同性介助への意向を取り入れ、週2回の入浴支援に努めている。状況に応じ清拭やシャワー浴を行う時もある。入浴剤入りの浴槽に気のあった利用者が二人で入ることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握して体調や希望に応じて自由に自室にて休息をとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の変更時などお薬手帳やお薬説明書ファイルにて用法や用量を確認、理解し服薬支援に努めている。誤薬防止の為、二人で確認や声掛けして飲み忘れが無いように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力に配慮して、生活リハビリも兼ねて毎食後の家事を交代で役割分担にて行なって頂いている。又、出来る限り外出・外食・レク行事を多く取り入れ気分転換を図れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの状態がちがう為、全員での外出は困難ではあるが、出来る限り一人ひとりの希望に沿えるように努力して外出支援をしている。季節に合わせて外出(花見・さくらんぼ狩り・海水浴・外食・買い物等)支援を行なっている。	事業所周辺の散歩や買い物、菜園の野菜等を眺めるなど、日常的に外気に触れている。定期的に町内の体操教室で体力作りを行い、恒例の海水浴やドライブを兼ね紅葉見物、外食等で気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に、お金が無くなった等の問題が発生しても責任を負わない事を家族には理解同意していただいたうえで、自己管理が可能な入居者に限り、お金を所持してお買い物時などお支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話がきた場合はご本人の居室にて話していただいている。又、ご本人より家族へ電話したいとの希望がある場合は確認のうえ電話していただいている。手紙などは自由にやり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に季節感を感じ心地よく過ごされるようにリビング・廊下、憩いの場などの飾り付けをしている。又、利用者が作った作品なども飾るなどして常に生活感や季節感を採り入れている。又、トイレがすぐ分かり行きやすい様に大きく表示している。	事業所は自然豊かな環境にあり、四季の移ろいが身近に感じられる。廊下を挟み食事場所と憩いの場所があり、利用者はそれぞれに馴染みの場所で寛いでいる。夏場のおやつタイムや夕涼みはテラスを利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席は、気の合うもの同士が話したりしやすいような座席の配置にしている。憩いの場では、ソファでテレビをみたり、音楽を聴いたり、時にはカラオケを歌うなど思い思いに過ごせるスペースになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、居室には馴染みのある使い慣れた家具を持って来て頂くようにしている。本人が心地よく過ごせるよう壁に写真を貼る事や仏壇等も持ち込む事も可能としている。	各居室は、持ち込まれた調度品等が利用者の動線に配慮して置かれている。装飾品の多少はあるが、それぞれに過ごしやすい環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口やトイレには大きな文字で、わかりやすい様に氏名などの張り紙をしている。居住空間はバリアフリーで手すりを設置し床はクッションフロアで衝撃に配慮している。		